12. 行政と一体となった研究と技術支援への取り組み

岐阜県森林研究所

岐阜県では、研究成果の普及・広報と技術移転に力を入れています。特に広報活動に重点的に取り組んでいます。今回は今年度取り組んだ活動を中心にその一部を紹介します。

１）イベント開催・参加による広報活動

森林研究所によるイベント開催や他のイベントへ積極的な参加によって研究成果や研究活動の紹介、森林技術の普及を行っています。その今年度の取り組みと成果を紹介します。

●年2回開催の「研究・成果発表会」

これまで年１回だった研究成果発表会を昨年度より夏と冬の年２回開催としました。毎回１５０名前後の方が参加します。これによって全研究員は１回は発表する事になります。研究目標と計画をしっかり組み立てないと一般の方へ成果発表を毎年行うことは難しいものです。研究成果の広報というだけでなく、研究員の研究意欲の向上にもつながっています。

●森林環境教室「森林(もり)を知り、地球温暖化を防ぐ！」の開催

７月に県内の小学校 5,6 年生を対象とした森林環境教室「森林(もり)を知り、地球温暖化を防ぐ！」を開催いたしました。「地球温暖化と森林の成長のしくみ」についての解説を聞いた後、森林内へ入り子供らが自らのこぎりで樹幹解析用の円盤採取を行い、年輪幅を測って成長量を計測し、日常生活で排出している二酸化炭素量と比較しました。子供たちからは「今度は二酸化炭素を減らす方法を知りたい。」など地球環境に対する意識の高い意見が出ていました。

●ぎふ山の日フェスタへの参加

8 月８日はぎふ山の日です。隣接する岐阜県立森林文化アカデミーの敷地内で、ぎふ山の日フェスタが開催されました。森林研究所は、研究所らしい企画ということで、「葉っぱのにおいをかいでみよう！」など木に触れたり簡単な実験などを体験しながら所内を探検する「研究体験クイズラリー」を行い、ご家族連れなど、120 人余りの来場者で 1 日中賑わいました。

●森と木とのふれあいフェア

10 月　には、県庁前広場で「森と木とのふれあいフェア」が毎年２日間開催されます。森林研究所もブースを出展しています。今年度は、葉っぱの匂いや年輪の観察など体験メニューをそろえ、研究成果や活動のＰＲを行いました。2 日間で延べ 1,200 人を越える方々がブースに来て頂けました。

●四美の里けんこう収穫祭へ出展

下呂市の南飛騨健康増進センターにおいて「四美の里けんこう収穫祭」が開催され、当所から「ホオ葉茶の試飲」、「サルナシやアマドコロ展示」などの出展をしました。大勢の方々から、熱心な質問やご意見をいただき、研究成果のＰＲと地域の皆さんと交流を図ることができました。

以上の活動について詳しくは、http://www.cc.rd.pref.gifu.jp/forest/event.html　をご覧ください。

２）インターネットの活用

今ではインターネット上にホームページを開設していない研究所はないと思います。当所では１９９７年から公開しており、今年で１２年目となります。ＨＰは開設当初から若手研究員の手作りです。開設以来毎月２回以上は情報を更新することを自らに課して情報発信に取り組んできました。現在の担当は３人目ですが、歴代の担当者の努力により今も守られています。その効果は毎年６０万件以上のアクセスとなって現れており、件数も年々増加しています。このアクセス数は岐阜県の公設研究所の中で毎年１,２を争っており、研究員一人当たりに換算したアクセス数では一番多いと思います。最近の技術相談等の問い合わせは、ＨＰからのメールによるものが多く、テレビ局等からも「HP を見たのですが」との情報提供依頼が増えています。

３）情報誌等の活用

岐阜県山林協会から毎月発行されている森林情報誌「森林のたより」に研究コーナーがあり、毎月当所の研究員が順番に自分の研究成果や取り組みを紹介しています。出来るだけ簡潔にわかりやすい文面を目指しています。全研究員が１回は執筆しています。

この他にも新聞等マスコミに情報提供を積極的に行うようにしており、今年度はこれまで以上に多く森林研の話題を取り上げて頂けました。